



サウンドバー

Bowers & Wilkins Panorama 3

¥159,500(税込)

SPEC ●総合出力：400W ●スピーカー構成：3.1.2ch ●接続端子：HDMI
eARC入力、光デジタル音声入力、LANほか ●外形寸法：1210W×65H×
140Dmm ●質量：6.5kg



ライフスタイル
大賞



金賞

サウンドバータイプTV用オーディオ
(15万円以上)



臨場感がケタ違い!「耳で聴くワイドスクリーン」

才貌両全、究極の

映画産業の黄金時代を象徴する「パナビジョン」と「シネラマ」をネーミングの由来とする、Bowers & Wilkinsのサウンドバー、「Panorama」の新世代モデルが、VGP2022 SUMMERにおいて、今夏を代表するアイテムとしてライフスタイル大賞に輝きました。インテリアにも音質にも妥協せず、大画面テレビでホームシアターをはじめたい方にとって、本機こそ最善の選択になるでしょう。

スリムなワンボディに、驚きの高音質が詰め込まれた

VGP審査副委員長 鴻池賢三

英国Bowers & Wilkinsは、オーディオファンなら誰もが憧れる、世界屈指の高級スピーカーブランドです。ビートルズほか著名なアーティストの収録スタジオとして有名な「アビー・ロード・スタジオ」でレファレンスとして導入されるなど、名実共に世界中で認められている存在です。そんなBowers & Wilkinsがサウンドバー、初代「Panorama」をリリースしたのは2009年のこと。本機「Panorama 3」はモデル名からもお分かりの通り、3代目にあたるアイテムとなります。

Panorama 3の特長はまず、わずか65mmほどの高さのスリムなボディに、サブウーファーを含む13個ものスピーカーを内蔵させたオールインワンタイプであること。見た目のエレガントさと、卓越したサウンドクオリティを両立させています。アプリを使った操作も先進的で、使い勝手のよさも光ります。ライフスタイルに自然に溶け込み、サウンドバーとしてもリビングのオーディオとしても使えて、生活に潤いをもたらすプロダクトとして、VGP2022 SUMMERライフスタイル分科会における栄誉ある最高賞「ライフスタイル大賞」に選ばれました。

この記事では、製品の紹介に加えて、「ライフスタイル大賞」に選ばれた理由やインプレッションをお届けします。

これまで一般的に、サウンドバーは何かと「手軽さ」が重視される傾向がありました。もちろん、設置や接続、操作が手軽になるのは歓迎ですが、コストの制限から、デザインや質感、音質といったクオリティがおざなりにされるケースも少なくありませんでした。そうした製

品も多くのユーザーに必要とされてはいますが、本物を求める方々に向けて「クオリティを重視したサウンドバー」という選択肢があってもよいでしょう。本機はまさにそうした期待に、見事に応えてくれました。洗練度が高くエレガントな外観、パンチングメタルと上質なファブリックによる質感の高さ、そして「オーディオ」と呼ぶに相応しい音の素性のよさは、本機ならではの価値です。

過去、欧米の著名なオーディオブランドが手がけるホームシアター製品は、音質はよいものの、デジタル系の機能が必要十分ではないことも多々ありました。しかし本機はeARCに対応したHDMI端子を備えていて、テレビとの接続はケーブル1本でOK。テレビのリモコンで音量調整なども手軽にできます。ドルビーアトモスへの対応は、ロスレスでハイレゾが扱えるドルビーTrue HDのデコードも含めて、安心のスペックを備えています。またWi-Fi対応でSpotify ConnectやAmazon Music(Alexa Cast)といった音楽ストリーミングサービスへの高度な対応、AirPlay 2対応、そしてBluetoothも最新コーデック「aptX Adaptive」に対応と、隔々まで最先端。機能面の充実ぶりも高く評価されました。

製品を目の当たりにすると、やはりシンプルでありながら美しく、エレガントな佇まいが目立ちます。薄型のプロポーションはテレビの映像を遮らない狙いがありますが、主張し過ぎないためリビングの景観を損ねないというメリットもあります。重低音の再生も含め、音質面では



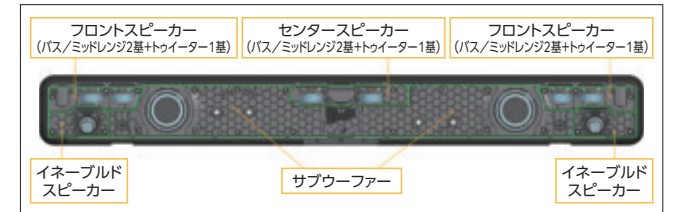
サウンドバー

スピーカーボックスや筐体にある程度の容積を必要とするわけですが、本機では1200mm(55V型テレビ相当)とワイドなボディがそれを担っています。

スピーカーの素の音を確認すべく、まずは音楽配信でいくつかの楽曲を試聴しました。なんといっても歪みが少なく伸びやかなサウンドが特長で、これまでのサウンドバーの概念を覆すものです。それもそのはず、通常スリムなサウンドバーのスピーカーユニットは振動板の面積を稼ぐために楕円形などになっていることが一般的ですが、本機の場合、13個のスピーカーユニットは全て真円形となっていて、音質最優先で設計されています。熱心なHiFiオーディオのファンも、リビングで大満足の音楽体験ができることでしょう。

また、こうした「素の音のよさ」を元に展開されるサラウンドサウンドも新次元の体験です。フロントLRおよびセンターチャンネルはそれぞれ、19mmチタドーム・トゥイーター1基と50mmガラスファイバー・バス/ミッドレンジ2基で構成されていて、独立したエンクロージャーに配置されています。なんとなく空間の広がり感を伝えるだけでなく、実体感やリアリティがあり、視聴者をストーリーにより深く惹き込んでくれます。これはデジタル技術だけでは成し得ないものです。特に声の表現が印象的で、セリフには張りがあり、ボカールを艶やかに、美しく聴かせてくれます。また、新たに天面に備えられたイネーブルドスピーカーや、大きな空気室を持つデュアルサブウーファーの効果も絶大です。3.1.2ch構成で再現されるドルビーアトモスの映画コンテンツは、天井を越えるかのような空間の広がり、しっかり試聴位置の左右まで鮮明に回り込む効果音など、音のVRともいえる立体感が味わえました。ホームシアターの醍醐味が、1つのサウンドバーだけで味わえます。デジタル機能のギミックやスペック競争に陥らず、オーディオの原点

内部構造図。19mmトゥイーター3基、50mmバス/ミッドレンジ6基、50mmイネーブルドスピーカー2基、100mmサブウーファー2基を内蔵していて、総合出力400W(10ch)のクラスDアンプで駆動する仕組み。スピーカーは全て歪みの少ない真円形なのが特長。各チャンネルはきちんとセパレートされた構造になっています。サブウーファーには大きな容積を与えられていて、重低音の再現にもこだわりが見て取れます。



左/筐体はファブリック、パンチングメタル、ガラスなど、質感の高いマテリアルで構成されています。本体には静電容量式タッチボタンが搭載されていて、スマホやテレビのリモコンが手元になくても、手もどで各種再生操作を行うことができます。右/Bowers & Wilkins Musicアプリによって、スマホからサウンドバーの初期設定や再生操作が可能です。また今後のファームウェアアップデートにより、対応する音楽配信サービスの拡大やマルチルーム接続機能の追加なども予定されています。

といえる「音質」を磨き上げ、心地よいサウンドと、より豊かな立体サラウンドサウンドを実現したPanorama 3。本質を知るBowers & Wilkinsのフィロソフィーを感じます。こうしたサウンドが、最新のデジタル機能と融合し、リビングで手軽に楽しめるのは、時代に沿った進化といえるでしょう。決して安い価格ではありませんが、コストパフォーマンスは大変優秀で、多くの人々に、よい音で潤いのある生活を提案する製品として、ライフスタイル大賞を主張するにふさわしいプロダクトです。